

『台湾ホンハイレディースゴルフトーナメント』 2026 年日台共催

2026 年『台湾ホンハイレディースゴルフトーナメント』概要

2026 年 3 月に入り、一般社団法人日本女子プロゴルフ協会（以下 JLPGA）が開催しているトーナメントの第 2 戦目として、『台湾ホンハイレディースゴルフトーナメント』が開催される。これは台湾女子プロゴルフ協会（台灣女子職業高爾夫協會・TLPGA）との共催になるのだが、その概要は下記の通りである。

■ 大会概要

- ★ 大会名称：JLPGA ツアー特別公認競技「台湾ホンハイレディースゴルフトーナメント」
- ★ 共 催：一般社団法人日本女子プロゴルフ協会
- ★ 共 催：台灣女子職業高爾夫協會
- ★ 特別協賛：台灣鴻海精密工業股份有限公司
- ★ 日 程：2026 年 3 月 12 日（木）～15 日（日）
- ★ 会 場：The Orient Golf & Country Club（東方ゴルフ倶楽部）
- ★ 出場選手：108 人

- ・世界ランキング選考選手 16 人
- ・JLPGA 登録選手 40 人
- ・TLPGA 登録選手 40 人
- ・特別協賛者推薦選手 12 人

- ★ 競技方法：72 ホール・ストロークプレー
(予選ラウンド 2 日間 36 ホール、上位 50 位タイまでのが決勝ラウンド
36 ホールへ進出。)
- ★ 賞金総額：200 万 US ドル（約 2 億 9400 万円）
- ★ ポイント：獲得ポイントがメルセデス・ランキングへ加算されるのは TP 登録者限定。
- ★ 賞金加算：獲得賞金が JLPGA 賞金ランキングへ加算されるのは TP 登録者限定。

台湾で JLPGA ツアーの開催は 48 年ぶり

JLPGA によれば、当該協会によるトーナメントが海外で開催されるのは 46 年ぶり、台湾では 48 年ぶりになるとの事。

48 年前の 1978 年に台湾で開催されたトーナメントの名称は「中華女子オープン」、このトーナメントの資料を台湾の中華民国ゴルフ協会からご提供頂く事が出来た。資料はトーナメントの成績表だが、今となっては貴重な為、出来るだけ正確に再現しておきたい。

1978 年『中華女子オープン』						
順位	名 前	国 籍	1 日目スコア	2 日目スコア	3 日目スコア	最終成績
1	涂 阿 玉	中華民国	73	72	77	222
2	呉 明 月	中華民国	71	75	77	223
3	岡田 美智子	日本	72	75	78	225
4	載 玉 霞	中華民国	74	80	76	230
4	山尾 眞知子	日本	76	78	76	230
6	蔡 麗 香	中華民国	76	76	81	233
6	則竹 徳江	日本	74	83	76	233
8	白井 昌子	日本	76	80	78	234
8	日蔭 温子	日本	74	82	78	234
10	黄 玥 燐	中華民国	74	81	80	235
10	永田 富佐子	日本	74	85	76	235
12	高村 博美	日本	83	75	79	237
13	清田 美佐子	日本	79	80	79	238
14	藤村 政代	日本	77	80	82	239
15	岩田	日本	77	81	82	240
15	田川 恵子	日本	80	82	78	240
15	二瓶 綾子	日本	76	84	80	240
15	竹岡 秀子	日本	79	78	83	240
19	山下 七枝	日本	80	79	82	241
19	坂本 美代子	日本	81	81	79	241
19	松下 美代子	日本	77	86	78	241
19	辻 和代	日本	80	79	82	241
23	鳥山 由紀子	日本	79	87	79	242
24	大山 文代	日本	77	82	84	243
24	石崎 悦子	日本	78	82	83	243
26	原田 佳子	日本	79	84	81	244
26	荒川 百合子	日本	82	85	77	244
28	潘 玉 華	中華民国	81	87	77	245
28	毛利 美智子	日本	79	88	78	245

(提供：中華民国ゴルフ協会)

優勝したのは涂阿玉選手。

20 歳時の 1974 年にプロ入りした涂選手が、その 4 年後の 24 歳時に日台共催の当該大会で優勝した。涂選手と言えばこの時既に日本での活躍が目覚ましく、当該大会開催 3 年後の 1981 年には、日本女子プロ協会の会員になっている。

更に呉明月、黄玥瑩選手など、後に日本の女子ツアーで活躍する選手が、数多く参戦していた事が分る。

文字通り日台女子プロゴルファー交流の、大きな記念碑となった大会だったと言える。

特別協賛、いわゆるスポンサーは鴻海精密工業

今回、特別協賛いわゆるスポンサーへまわるのは、鴻海精密工業股份有限公司 (FOXCONN) だ。同社は、世界最大手の電子機器受託生産 (EMS) 企業だが、当然本社を置いている台湾に於いても、国を代表する企業である。

日本に於いては、2016 年に経営再建中のシャープを買収して、大きな話題になった事は未だ記憶に新しい。

その FOXCONN は 2025 年の昨年、日本自動車業界へのアプローチとして三菱自動車への OEM 供給や、日産自動車との電気自動車分野での協業協議などが大きな話題になった。今や FOXCONN は、日本に於いてもその存在感が大きなものになっている。

このような環境下で開催される『台湾ホンハイレディースゴルフトーナメント』は、賞金額のみで見ると、2026 年 JLPGA トーナメント全 37 試合中 3 番目の高額賞金試合になっている。FOXCONN の資金力が、如実に反映された結果ではないだろうか。

またこの大会を別の側面から見るならば、ゴルフに於ける日台の親密度をアピールする大きな出来事になるのは間違いないし、その先には日台交流の更なる架け橋になる、その様な可能性も予見させる。

ところでこの様な素晴らしい要素を多分に内包している当該大会の複数年開催は、有るのだろうか？

JLPGA によれば、当該大会が次年度も開催されるのか、或いは単年度で終了してしまうのか、現時点では情報開示出来ないとしている。出来るならば複数年で開催して欲しい、これが日台のゴルフ交流に親和性を感じている人々の、偽りない心境では無いだろうか。

当該大会は、JLPGA2026 年ツアー開幕後の第 2 戦目に位置付けられており、シーズンに突入した選手達のモチベーションは相当高いものがある。オフシーズンでは見る事の出来ない選手達のパフォーマンスが、日台両選手達の白熱した戦いとなって展開される事を期待したいものだ。

2026 年 2 月 9 日

文__大野良夫 © Yoshio Oono
日本ゴルフジャーナリスト協会員